

ア式蹴球部

昭和十八年度

東京商科大学豫科

ア式蹴球部

練習日誌

昭和18年3月7日(木曜日)

今日午後7時事内部内庭球審に集合。確立し
る覺えた所。現在各處不躊躇部の位置は各人か
何を論充分脳裡に刻み込めて了すが如き。各人各所
、各自以實心つゝも商不躊躇部工二部のみ一部八
九立とゆく目標は一つである。

遊3"とまにも一諸に遊ばう。会宿に於ける練習は勿忘
れ。一回目はかた知れぬことを教へ本、会宿以上の以上、上
記の項目当該の甲と乙は相はざる所。併し当該の甲か
か何れかに難きかた知らず時、力が去つた時の重要な手筋入
させられることある。

現立の豫科は二、三ヶ月の落居でけだ。皆大々一年、二年と
既球部生活を送る事無くかた。精神的には、一年
と二年とでは了すが確心した。不至ひに欠處で知り合ひて、其
の和心得らねばならぬから。会宿中は自己を隠さず、有
りの盡り姿を露せんべれ。

豫科 参加者

永倉 奥村 加藤 川端 (佐藤)
高柳 床富 竹山 西浦 (岡本、松岡) {不参加}

3月8日(木) 午前 晴 午后 晴 寒気微々

起床後 軽い体操

午前の練習 (午前3時間)

1. 体操 2. ラーニング (バランチ色) 3. スケーリング

4. ブドウ
5. サイト・ドック 6. ハーフディング タスクロード
- 午前 (不規則ランド)
1. 体操 2. ランニング 3. スワーピング 4. サイト・キック
5. ハーフディング 6. ドリブル・ボール 7. ワーク

寒気で走るところが、最初走り出さない。走り出さない。トレーニングと六日で走り出さないが、最初から走り出さない。最初も大切である。次に意気充分とすべきです。人数から少しひ元気から走り出さない。人数から少しひは少ない。皆の意気から走り出さない。次下の時は走り出さない。足下をサーザアドバイス。これは必ず押し流さないと。脚を走らせる最後に走る。3ヶ月間走らなければ走らせてはいけない。これからは豫め脚筋の使命は常に走ること。上級生は走らざる下級生も大いに自覚すべき。

x x

困った件 大いにからむ反応しない。全く反応しない。それが足りないので。下級生は君が悪さだ。街で走れ。(未食)

3月9日(火) 晴

- 朝 谷保天神道ランニング 行9分 徒歩8分
- 午前 1) 体操 2) ランニング (ランド) 3) シャドウ
4) ドリブル 三回一転く 二回 テクニック 二回 スピード
5) サイト・キック 6) ショート・キック 7) ストッピング
8) 三角戻 9) リレー 10) ランニング
- 午後 1) 体操 2) ランニング (ランド) 3) ダッシュ
4) シャドウ 5) ドリブル 6) サイト・キック
7) ストッピング 8) ターゲットヘッド 9) ミートのサーキル・キック
10) ランニング

二日目、皆相手身柄が痛み出したやうだ。結婚式一合席の本格参入でないのだった。もっともっとペナルのた。これ位でへこたれでは居られない。私は豫め料の上級生だ。この合宿を通して技術的にも精神的にも新たに鍛錬を直す(身村)

3月10日(水) 晴凡強化

- 朝 午、科技舎前に於て 体操
- 午前 (1) 体操 (2) ランニング (3) スタート・ダッシュ
(4) Shadow (5) ドリブル 三回 (6) Back'行 ドリブル
(7) Short-kick (8) Heading (9) Stopping
(10) Long-kick (11) 前後ガシ江、左右ガシ江
(12) ランニング

- 午前 (1) 体操 (2) ランニング (3) Start-dash
 (4) Shadow (5) ドリブル (6) Back付ドリブル
 (7) Short-kick (8) Circle-Stoping
 (9) long-pass (10) ウォレット-kick (11) long-kick
 (12) Start-dash (13) ランニング

どうやら三日目の練習を終り、足の痛みが少しぐらい
 明日は今日の練習の山だ。しかし慣性に流
 れ易い練習の一息入れかへて明日から本格化へ
 ひでやがれ行き度...何とかこの会場で以上苦に
 くには戻る。自信と少しうまむとつけて見度。
 (川端記)

3月11日(木) 快晴 割合1/4

朝 ランニング 約20分

- 午前 1) 体操、2) ランニング、3) グラフシユ
 4) shadow 5) ドリブル 6) short-kick
 7) running-pass. 8) long-kick.

- 午後 1) 体操、2) ランニング 3) グラフシユ
 4) shadow 5) ドリブル 6) short-kick
 7) receive-and-pass. 8) long-kick
 9) running-pass. 10) ランニング
 11) 体操。

14のいたみで大分和った。午前は見苦しい練
 習をやってしまった。しかし午後は気持ち良かつた。
 けれど大分疲れた。ショート・キックは毎日
 怒鳴られていた。頑張れ。
 (カトウ)

3月12日(金) 快晴

朝 体操

- 午前 1) 体操 2) ランニング 3) スタートダッシュ
 4) シャドウ 5) ドリブル 2回 6) ヘッディング 競合ヒ
 ク 7) ドリブル 8) ショートキック 9) ランニング10ス
 10) ロングキック

午後 練習休憩

西浦は児さんが死んで、直帰。
 今日の練習は良く日が照って暑く、苦い練習で
 あつた。午後は休みで外出も許可された。ここで
 録気を養つて明日からは新しい意氣で始める。
 今日迄の五日間は實に長く辛い日の練縛連続で
 あつたが、又考へればもう半ばは過ぎてしまつた
 のである。今日の五日も瞬く間に経つてしまつて
 あらう。この短い期間で有効に一日一日を充実させ
 るといつ。(高柳)

3月13日(土) 晴れ 微風(少雨)

朝 ランニング 約20分

- 午前 (1) 体操 (2) running (3) dash
(4) shadow (5) dribble (6) short-kick
(7) running-pass (8) shooting
(9) running.
- 午後 (1) 体操 (2) running (3) dash
(4) shadow (5) dribble (6) short-kick
(7) running-pass (8) shooting
(9) running. (10) 体操

昨日半日の休養が皆大命真氣が盡る様だ。
今日の朝は不思議なままで冷える。些々気温が下
会宿六日目。もう後半に入らる。足の腫れも
大分薄らいだと思ふとも全身的の疲労は健在だ。
(美) 朝の running は全く目をくじて筋走り筋走り
である。

雨のため ground は筋走りにつけられ。皆
汗ばむ。裏山は強烈な雨だ。山頂 faint の練習で
いる。普通の強度ではまだ走れるが強烈な雨だと
走れない。山頂は強烈な雨だ。唯 独自と
faint と走れるのがいい。昨日、今日と練習をしながら
筋走りの筋走りを強化する。

午後は走りと筋走り (筋走り)

3月14日(日) 晴れ

朝 東洋アーティスト体操

- 午前 (1) 体操 (2) running (3) 水泳
午後 (1) 体操 (2) running (3) dash
(4) dribbling (5) dodging (6) short kick
(7) long kick (8) running pass (9) shooting
(10) stopping (11) dash (turning). (12) running

總体的に疲労心感じられた。午前の水泳は、練習不足
であった。常日頃動かさぬ筋肉を動かし易せなかつた。
が倍加一致して、一つの試練にふるえられることは、大いに
結構である。自然の偉大を感じると共に、又人間の体力
と強さを実感する機会である。
グランドのコンディション悪く、腰の動作レインakered
でけむる各目的附件にて打破すべきだ。

此の合宿中に、一つもめぐらし、自分の特徴や技を併得
し難い方だ。多くを望む物れ、而して一つを併得せよ。
重庆を義理で進んでおこなう。後三日を云。今迄の仕
上りをかられたりやつれ、やり抜かう。(永念)

3月15日(火) 曇後晴
朝 ランニング 25分

- 午前 1) 体操 2) ランニング 3) タンデュ 4) ドリブル
5) ドリブル 6) 極小円 7) 稍大円 R. 8) 稍大円 L.
(スル、ゲート)
午後 1) 体操 2) ランニング 3) タンデュ 4) ドリブル
(本番グランド) 5) ドリブル 6) 極小円 R. 7) 稍大円 R.
8) 稍大円 R. (スル、ゲート) 9) ヘドゥの競争会
~~専門部~~ ~~以下~~ ランド道 32-27
10) V2-ラング 11) フレ 12) ランニング

今日の午後 山本(9ボ)さんが来られて一詰め練習した。
早いもので合宿も後二日に迫つて終つた。筋肉の痛より
も全身的に疲労したやうな気がして随分に流れやせ
る所が見える。痛さでも疲労でも肉体的のそれより
も心理的のそれの方か遠く危険である。痛いとも被
れたと考へることは最悪のことだ。何時ないと考へて
みればどうにかなるのだ。
(奥村)

3月16日(水) 晴 終段風烈くちよ
朝 34. 挑

- 午前 1) 体操 2) ランニング 3) タンデュ
4) ドリブル 5) ドリブル 6) ショートキック(ト
7) ショートキック(大) 8) ロングキック
9) 跳蹴り合戦 10) ランニング 11) 34. 挑
午後 1) 14. 挑 2) ランニング 3) タンデュ
4) ドリブル 5) ドリブル 6) ショートキック(ト
7) 同(大) 8) 三脚パス 9) receive and
pass. 10) direct kick 11) ランパス
12) criss cross 13) ランニング 40分
並ヒニ 1/2(午後天神へオホ参り)
此レニテ 1回、会場練習ヲ終ル。
種々の都合に依リ一日操にけて会宿を終
ふ事はなかつたが、その精神を保つて来日練習
から往復練習をするやうにこの訓練を重んじ
毎度、事下ら 大分 タンデュ、練習をやつた
日もあるが、割合張切つた九日(送)は20-
未満を。二日向休んで又張切ら。

(加藤)

3月17日(水) 晴 風強し

昨日と以て合宿練習を終り、今日は何と何なしにのんびりした。今度の練習は20日から、それに先づへ休養を取る。~~また~~休みを保留のたう、完全休養にて20日又~~と~~おなじ一歩と休み生きて。

今度の合宿はす成りつらかつたが、苦しさに対する自信がついた掠な気分す。その後で意義のある合宿であったと思ふ。リーグ戦あと一月である。安閑とてはあらざる。要は20日いらだ。(川端記)

3月20日(土) 小雨 於専向部 グラウンド

- 1.) ground 2周
- 2.) stop and pass
- 3.) short kick 4.) circle kick, pass stop and pass +
- 5.) direct 6.) running pass 7.) ground 一周

今日は豫定のグラウンドでやる予定であったが変更されて専向部で行ふことになつた。三日の休みの後色々と故障のため集り難く練習参加者は僅か9人となつた。

(高柳)

3月21日(日) 晴 小雨 檻机

- 1.) ground 2周
- 2.) start dash
- 3.) dribble; free 2回, defence pass 2回
- 4.) short kick; small circle, large circle
- 5.) circle kick; stop and pass direct
- 6.) running pass 2回 crisscross 2回
- 7.) forward's shooting
- 8.) back's kick
- 9.) 前後 dash 2回 dash
- 10.) ground 2周

昨日より続いた春雨のために、合宿中檻までれて未だ砂塵より解放されたか。グランドの凹凸がそのまま固ってしまったために、球が~~走る~~ irregular bound になつた。

リーグ戦開始迄あと二十数日、益々元氣を持って練習せねばならぬ。(高柳)

3月22日(月) 小雨

- 1.) Running (ground=回) 2.) Start Dash 3.) Dribble
(free=回; defence=回) 4.) Short Kick (small circle and
large circle) 5.) Circle Kick (stop and pass; Direct)
- 6.) Running Pass. 二回 7.) Heading shoot (Forward)
- Attacking (Backs) 8.) Shooting (only Forward)
- 9.) Heading Clearing (only Backs) 10.) Back's Kick.
- 11.) Dash (long) 11.) Running (ground=回)

昨日より練習を始めた。練習と云つて、さうしたくない事ばかりだ。
猪兄の活動作はなんなんと、虎狩の色を見るのを見つけて、更に自分の
練習の出来など自分を不甲斐なく思ふ。食と快戦の幕は切つて落
されたのである。一刻も速く完遂して猪兄と共に暮れたい。
練習の出来などは自己なりと共に猪兄の脚筋筋肉は成長して筆を
描く。

(4月23日)

3月23日(火) 晴

- 1.) 体操; ground=回 2.) Sot Dash. 3.) Dribble (free=回; defence=回)
- 4.) Short Kick (small and large circle) 5.) Circle Kick (stop and pass;
Direct) 6.) Running Pass 二回. 6.) Shooting (only forward)
- 7.) Backs (Backs) 8.) Heading Clearing (only Backs) 9.) Heading Short (forward)
- 10.) Long Dash 11.) ground=回

14時定刻に集合、専門部入試の為練習開始を15時からとし、午後6時

假藤重治. 1). 1-1 戰(12-2の話有). 大雪を次に述べん。

member. 法室(略洋略組); 現下に於ける高大蹴球部の位置. 並に之を
備へた武の部位の対応. 注意. 研究心. 昇揚. 等。 1-1 戰と後一日是55
の中迎へた武の。各人各人備へ有. 審査有) 1-1. 戰以後. 勝ち抜く
為に日本軍が) 第2回(即ち) 12月(かねど) 増強的のものだけでは到底一部復興す
難い。積極的にやつて行かねばならぬと思ふ。今日の練習は今宵後
に見立てる氣有り。更に一層意氣を張り上り。Fright 的練習を(5).

2+3=80 算術を成るは幸運の戰(には現出しえばなつか。(4月23日)

3月24日(水) 雨

- 1.) 体操 2.) 1-1 戰 Running 3.) Short-kick
- 4.) Long-kick 5.) Running-pass 6.) shooting.
- 7.) Back's kick 8.) Dash 9.) 今宵所定 Running.

昨日、1-1 戰の詳細な取扱いは廻りには、我等は。
余りに歩きの體つきが早めに驚く。併し驚いて居ては、SOGO。
此の際各人は、痛烈か、自己反省を了すべきと思ふ。
従来の自己といふものが果して消化され居たか? 不消化
の過音と肩負ひ今迄やつて来たか? それとせば、この不
消化を如何にして消化するか、今後の各人の道場一つ成功
不成功は終るに至る。

我々の肩負は既に一部から一部へ侵襲した時から既に
始つた。この等々を22 関東選手権大会あり、而して浦島
射水あつた。ここで前名に於ては、危、3. 乍ら、声室の通りの砂

果を收め得た。後者に於ては、高大蹴球部の一大特長たる
左脚射點の真に一札といふ浦萬に当た結果輝かしい
勝利を收めた事にあつた。我々は此の試練に受け、或ひ
自信を得たり信する。即ちこの自信をもつて決して自惚であ
つてはならぬ。自信と自惚は紙一重だから、この等々をうちめで
ば判斷せずせねばならぬ。

今方のリーグ戦は現況の高大蹴球部については、何といつ
て荆棘の道であると思ふ。部員歩み。少し上に負傷者本
多い。何時誰か倒れかず想がまぬ。SubもRegular
もありまへない。此の度を充份に利用し、会员は、一日一日の
練習に満足せず自分を発見出来る様にして行なうが好い。
現在におけるは“満足不足”以上の練習をせねばよろしくと云
はれる所も知れぬか。少くとも、自分なりに満足でき、練習を
出来ないの、それが人を望まない無理である。

一日の練習に竟ち僅か不自由を覺えて外れ是れ。
日勤を務めり是終へ。後何日あると思ふ。例年よりも足りる
一日勤で初歩不足から、人數は一部優勝の小大園黄庭
克服し前進せんに。如何に部員が团结に团结を奮む
ても意をすがれどいふ時は無い。主に自由か。今高大蹴
球部の此の仲の一端を受持つ者であるが如きには、
心底から嘆息と仰からる強烈な沸き立つのが感じ
られる。一日一日ビラミドを築いていくのが我々の仕事。
ビラミドの尖端に何があるかは知らぬ。併しその先へ向むけ
て歩けりこれがねばよろしく。(主。平)

3月25日(木) 曜日 晴

- 1) 体操 2) グランド一周 3) Dribble (Free 2回, Defense)
4) short kick 5) 三角 pass 6) long-kick ~~etc~~
7) running pass 8) shooting 9) dribble-shooting
10) Backs, 跳合 11) Formation (Back + V)

昨日考へた二点が 昨日のやうにグランドコンディションの悪い
時は殊に身体の平均が大切であると思ふ。身体の
平均をよく保つて置いて早くボールに寄るは無理な姿
勢にならぬから轉ぶることもない。また、キックも無理な方
角へ無理な姿勢で蹴ることは何の効果もないし足
を餘に大振に振るのも決によく蹴れない。小振に
じつと當てるのが一番よいやうである。

これは 雨の日などによく氣が附いたことであるが、コンディション
の悪い時でも身体の平均に氣をつければ、もつとよいキック
が出来るし、球の処理も早く出来るのではないかと
思ふ。即要するに ランニングの問題である。
然し以上のことは一般的な場合で急要する場合 (Backs
窓のリターン等) には “妥当しない” 事である。

今月 今年度初めての Formationを行つた。 ~~等~~ 待望のものが来たと言ふ感じである。ナバーをも大作成
した。さあこれからすべて勝負に捧げや (奥村)

3月26日(金) 晴風アリ。

- 1) 体操
- 2) グランド一周
- 3) ドリブル 4回
- 4) short-kick
- 5) 三角パス
- 6) receive-and-pass.
- 7) place-kick
- 8) direct-kick
- 9) running-pass 二回
- 10) shooting
- 11) dribble-and-shoot
- 12) バックの跳り合戦
- 13) head o clearing
- 14) formation.
- 15) place-kick
- 16) running (グランド半周)

本校一年、今日ヨリ野球ニテ缺席。

今日から僕々 小平、グランドデヤルコトニナリ。

今迄、落着力ナシ気分ヲ一掃シ。シカクグラン

八專門部ハ同様ニ極メテ悪イ。

本一サヘ歸ツテクレバ、ソノアリケン戦に向ツチ
突進ダ。ソノ日程モ決定シテ、ハウキット目標
が定マフタ感ガスル。ソレニモ抱ラス怒
鳴ラレテキルガ、決シテ長ト間テハナツモリタ。
腹、調子モ相不変不調タ。シカシソノメニ
意氣消鎮シテハナク。ソノヤウニ見エルカモレ
ナイガ、自分テハソウデハナク。

3月27日(土) 腹を壊しために此の二日間

28日

練習日誌を止め置いたことは
誠に申訳ぬ。

3月29日(日) 晴 北風強し。

- 1) 体操
- 2) Ground一周
- 3) ドリブル free 2回
- バック付1回
- 4) short-kick
- 5) long-kick
- 6) running-pass 3回
- 7) shooting
- 8) dribble-shoot
- 9) Backの練習4合
- 10) バックのclearing 一人づ
- 11) formation
- 12) ground一周

昨日折からの北風に砂塵を捲き上げ、ひとくondition
であったが、一般に元気なあつたと実感。處さん不在の高
134のユニークな声をきけないのが一沫々さびしさであつた。
星に俺達はもう一度俺達の部活のあり方を考へて見つけ
ねばならぬ。汗にまけた、夜にまけたで練習す俺達は一
体、どうあらねばならないか、七蹴球部の練習をむづかしく
こゝへぼりせざるにあれど、恵み豊かな土壌に致し、太陽
の熱を直接受けに吸收して、快哉と叫ぶに止まつてすらある
恐らくは美しいものであろう。併しけは平和有勢の運動と云
はれてよかつたらう。現今の日本状勢を察へて見ると、被
災日本は今、食糧から食料までの未嘗有の難局に立つてゐる。
かく運動部は元氣をもつて上の如きをやめざつたらう、寧ろ忙び
の時間を使って金秋の取つて勤労奉仕でこれがよほど氣
がきいである。自家々俺達に要素(ヨウソニ)は強い這じ人肉
である。俺達の印生辻はんを貴しい字に浮いておるが何である。
強い這じ人肉は決してそんなひで作られたわけではない。

レース中、午後の数時間とさき、肉体の苦痛と取れし。か
くの疲労は何んで後悔せぬが、僕達にこの2日間生活は
あくまで、うなぎ強の運で人肉を骨板へ上げる帰にしてお
こされたのである。弱弱の波は小さく激しい。決してお闇で
この日々の生活を送りきつておる。

二十から三十分もあらうと、若くちのままだらう。肉体
と精神の闘争である。それは我等の希望と生じる事。
僕達の飛躍發展の過程は、偏重あたりから始つて、左足
～右足+自覚～自覚等々、自己に敵にて自由の境
地を突破する連続と続つてゐる。現実の肉體と心の争
いが何時もここを行つて、如何のため得計つかは他日に
待つ所では。これが叫ぶる風が序らむ、うなづかんが、
他の日常生活に移る。かく苦痛になると、本能に走り易
く僕達が強くなる。——以上自己と比較する事である。

(川端記)

3月30日 (火) 曜

- 1.) 体操
- 2.) グラウド一周
- 3.) ドリブル Free 2回
- defence 1回
- 4.) short kick
- 5.) running pass
- 6.) shooting
- 7.) dribble shoot
- 8.) forwards combination
- 9.) back's attack
- 10.) long kick
- 11.) ground - 周
- Tracks clearing

連日の猛練習に依る重なる疲労は此頃愈々甚しく
なつて来た。此處で一日も早く押切らなければならぬ。
毎日毎日技術の向上を目指して精一杯やつてゐる
積りだが、少しもその効果が見えないので「自分ながら、
嫌になつてしまふのだ。課せられた責任を果す爲には
余りに技術不足であり、なんとかしなくてはと焦る許りで、
一日も満足に行かない。昨日は精神情なくなつた。

こんな事なら、メハーノ変更をして貰はうかと考へても見たが、
そんな弱気で走り出すより先に、此機會に自分の力一丸で
試して見よう。後はどうなるとも何を考へまい。と別の
心へと起して今日から出発し直す事とした。

苦しさに打ち克つて行く所に喜びがある。時には堪へ
切れぬ様に見え、苦痛に逢つてこそ始めて人間が試され
るといふが、實際にこんな場合に直面した時に、之を超克する事は難しい事だ。

(高柳)

3月31日(水) 小雨模様、寒い。

- 1.) 体操, ground一周
- 2.) Dribble (free = 1回, Defence 1回)
- 3.) Short Kick (small circle and large circle)
- 4.) Circle Kick (Stop and pass, Direct)
- 5.) Running Pass (三回)
- 6.) Shooting (single, Dribble, Pass + 2人, 全部2回)
- 7.) Back's Kick
- 8.) Formation
- 9.) Running (一周)

本日14時半の習熟曲にて練習を初め。

荒川、金原、両兄 Formation の時に姿を現す。練習を見たときに、「今日はけんかが元気がないね」と云ふ。急所に觸れたかのように見える。
12月の後には練習試合とは云へ、会場以来の我々の更力を現す。
対文理大戦があるのだ。猛者を撃す。甘く持て捨てよ。
食事(明日)、全負担3つ練習が出来た。樂(みだ)。

(4) 小記

→ 4月1日(木) 晴

- 1.) 体操
- 2.) running
- 3.) ドリブル 1回
- 4.) Back Pass 1回
- 5.) short kick. (= 2回 合計)
- 6.) 走蹴
- 7.) テン=ラン、2回
- 8.) Back の蹴合
- 9.) clearing
- 10.) formation
- 11.) 駿走

小雨の予報が3時、うすい寒い天気で始める。F.W. と Back は昨日より元気らしい。

自分は一ヶ月の間迷走末復 ground をかへってきて、遠くからユーフォーム姿の部員姿を見た。何からかのあらあつてて、目がさめなければならない。3.3.3と3.3.3の感覚がものを感じられる。然し全部が全部自分の迷路がなじはれていて、まだ未だ混乱の腰が現在である。色々考へながら、まだまとまらない後來を書く。

長い人の練習の写真がはじまる。

4月2日(金)

- dash
- 1.) 体操
 - 2.) running, 13. ドリブル
 - 4.) short kick
 - 5.) long Kick.
 - 6.) running pass
 - 7.) Back の蹴合
 - 8.) clearing
 - 9.) Formation.

4月3日(土)

1. 34 操
2. running
3. ドリブル
4. short K.
5. long kick.
6. running pass.
7. shooting
8. Back の蹴合
9. clearing
10. Formation

練習試合と明日午後15時。

自分は全然体が未だおれども毎日毎日。
不甲斐ない練習とつづけて心苦しいが、
早く皆まと同一段階へおこうと努力を積んである。
(佐)

4月4日(日) 晴 猛暑
対文理大練習試合

商大×文大

永倉	F.W	商大	{ 1 - 2 }	文理大
瀬藤				
工屋	H.B.	F.B.	{ 0 - 2 }	文理大
安田				
奥村	H.B.	F.B.	{ 0 - 2 }	文理大
高柳				
川端	G.K.	G.K.	{ 0 - 2 }	文理大
松浦				
鷲野	G.K.	G.K.	{ 0 - 2 }	文理大
木田				
力義	G.K.	G.K.	{ 0 - 2 }	文理大

考へて見中は前半凡下に在るが、それでは
文理大の底辺が弱い。後半凡上といふ地理
的條件に裏切れて行政得意出来事があつ
たは、各自の観察から色々な意見もあつた
が、僕の観察では、精神の弛緩があつ
た。本件生じた練習試合では、文理大が勝利。
全くあつたが、その點で盛り立つのは誰か。
豫科生清君だ。

は、月に9回敵陣へ突進めざすといふ、浅薄な愚慮が少しある。
練習試合は單に勝敗を重視されず、各人の欠点が
試合を通じて必ず見られるものである。初戦を星正して以て4-2全得
の欠点を除く限り必要があり、初戦に於て練習試合で負けるといふへ
る人があつて星正へまで有利な機会を与へられた事は、決して
良きことではない。

我々商大蹴球部は、二部である。一部とやつて負けの時は当然と思つて
はいけないから、もしくは甲子年へても居たが、3年生
は現在の商大蹴球部の権限されて東大在籍で其に俱ん語学の資格がある
人である。一部の音楽部や文化部勝つ程の実力があつては、二部優
勝が叶わぬ。里へば薄水を踏む思ひが子。万人が文理大を愛する
が、二部が上うる事は叶わぬ。もしアンドレをしめ也か。星柄の練習は、
甘くあつたが、その點で盛り立つのは誰か。豫科生清君だ。
本件生じた練習試合では、文理大が勝利。練習場は、
万全の練磨がへてゐるから。

4月5日(月) 晴

ダーランドのローラー引手

都會人は直路を走る裸足で歩くと、近道の服のうるさが
放射線が多め、資金をとるが方法が悪い。特に土は乾燥
で弱い。今日はハサシで、小川の土を踏んで、3ヶ月間脚は、アフ
ターパーツ。本件の人達が、皆元気にはつて立つて行つた畢竟
は、足を紅色かぶつかつた。

4月6日(火)

午前十時半、立川の荒川さんと下宿の先の立川大輔の会議室で開かれた。各自の意見を述べ、意見統合。上の席上、高橋三善さん、グランドマネージャーの大段で14回行われた。

1. 体操
2. Ground一周
3. ドリブル
4. ランニング
5. ロングキック
6. ハーフティング、競合会
7. 3v3、1v1
8. ジュニア会
9. 1v1のアシスト
10. フォーメーション

4月7日(水) 雨 3グレー グランド 1v1

1. 体操(室内)
2. ランニング
3. ロングキック

4月8日(木) 雨

1. 体操(室内)
2. Ground一周
3. ランニング
4. ドリブル
5. ランニング
6. ロングキック
7. ハーフティング
8. 1v1の競合会
9. フォーメーション

雨の日が二日続いた。相当グランドで一悶々。雨の日の競合会もあつたから、各人は、この二日空の休憩を今日に生かす必要はないらしい。今日のハーフのattack Bとpositionの取り方不可。各自の団結をめざし、一歩を進む。マッチで、ファウルも至極と云ふ。小生も大方おじいちゃんがリモートに寄る。感心した。これから直す所はあります。

(永倉記)

4月9日(金) 晴

1. 体操
2. Ground一周
3. ドリブル
4. ランニング
5. ロングキック
6. 23才3つRun haso
7. ランニング
8. バツイの競合会
9. フォーメーション
10. 鉄棒12回、角垂五回

今日から松岡が帰京して参加した。身体を早く鍛錬へ直に営む。

近頃予科生は馬鹿に出席が悪い。少し部員で一人一人が如何に重要なか、サブモレギュラーもなく一つになつて行く部の傳統を考へたら休めない筈だ。止むを得ぬ用事など云ふものは最も排撃すべきだ。我ながら取つて練習を止むを得ぬ用事でありますからだ。サブだから休んでいいからなど考へたら飛んでしまつた。俺が居なかつたら蹴球部はどうなるのかと云ふ氣概と責任を持つて欲しい。二んな感じで予科は本科に完全に敗けてゐる。若くて元氣一杯で純真で右顎左顎する事ない筈の予科生が二んな所で本科生に敗けてみたら予科としての本質が全然なくなつて絶る。予科が蹴球部の原動力と云はれるのは何を技術かやしないその元氣と馬鹿正直者である。

(奥村)

4月10日(土)

晴

1. 作 操 2. ランニング一周 3. ドリブル
 4. カーボンキック 5. ロングキック 6. 2対3
 7. ジャーティング 8. バックの蹴合 9. フォーメーション

4月11日(日)

晴

- 1) 強 撃 2) ランニング一周 3) dribble
 4) short-kick 5) kick-and-pass
 6) direct-kick 6) 2対3
 7) shooting 8) dribble-short
 9) バックの蹴合 10) sliding-tackle
 11) formation.

連日、疲労漸く現れ、動き鈍い。
 山本先輩来られ、一諸にボールを蹴られた。
 昨日、報道開園式に於ける有志演説中、我々の耳に入れるべきもの二三あり。

他の部の者に対するセントラル化はかまはない。
 しかし、部員同志に意志の流通を缺くならない大問題だ。予科部員の間は一應、
 友好的にも知れぬ。しかし親友の同柄
 ではない。グランドの上に於ける若人の間の
 間志が、眞剣さが、グランド以外の生活に
 于ける若人の交友関係を見られる。
 グランドの上の若者は堪へられる。——いくら

若ても張りがある。純粹な氣持でやがて
 行き易い。しかしグランド以外の生活で部
 に頼るべきものがないとしたら、悲惨だ。
 気がつかずには、或ひは、知つても表面上
 友好的であるとも、其の関係は永遠しき。
 いや返つて、こゝやうな我々の生活の支柱と
 してゐる部生活の中では、他の卓立の交友
 関係が自然に消滅するのに苦悶し、そ
 の上に悪化させ。危険がある。我々予
 科三は早速部生活と他の生活との調和
 に因る解り難い苦心を。しかし、
 早速の部生活——に波瀾がない
 つたのは、決してそれが正しい、適切な、
 いつにあつた爲だけではなく、軍は樂天的
 な、或ひは無知な予科三共肯つ性格
 が早速の——若人の自己中心主義的な部
 会の良さに乗じて、若人の手を握らせて
 おこなは過ぎる。誰かが、他の生活に
 目を向けて、困惑する際、他予科三は全く無力だ。迷小者は歸る道
 を必ず忘れて、いや故意に部を何ナ
 ー一直銀に他の生活に走ってしまう。
 残つた者は彼と「自己の生活は徹底
 未来の者」として嘲笑す。

直きに新入生が入つて来る。敏感な
者は健達の向柄に対する意識的
ではないとしても、必ず不満を持つ相異
な。この時健達予科三日後等を差
引張つて行く能力があるかなか。

(加藤)

4月12日(月) 晴 跳び駄

1. high jump.
2. running
3. long jump
4. short kick.
5. long kick.
6. 2:3.
7. shooting.
8. arrabile shoot.
9. clearing.

現在、蹴球部の練習をグラードで見つけて、成る部
が一部の落ちこぼれの姿。理由が何かは直観的
に感じ取られる気がする。特に自分如今境遇から
予科生の姿を見つめると、一層強く感ぜられる。
これは僕一人の感心でもあるが、確かに成る今
部は、個性的、意志、強固なが決して缺いて
来ない。他人は表面的には“彼は蹴球社に
在るのだ”、云々成るが、殊に“彼は”と安易に
他の部員と差別されるんではいかだらうか。
以下自分のなりふりを顧みず畢竟を吐く。

予科生は云々知らず、予科生を見れ、加藤と言つて
云々する僕達の向柄は甚だ浅薄なものである。
但し、之れはグラード以外の予科就いてである。

我々が毎日学校へ出で放課後二時間か三時間
苦しい練習をして互に激励し合ひ、アーティの上の
研究をする。之は部生の最も貴い所である。それは
勿論であるが、其の後、風呂へ入り、雜誌の中
の電車で歸つて明朝起きて会う。翌日又
その生活を継いで下さる。繰返しなれば。

練習に體の力を捧げたが、それ自身はもとより、
当然であるが、学び方の上へ於ける態度のみ
あれば、私立大学にてやれるのである。或いは、云々と
強烈な練習をするかも知れない。然し残りは
云々、グラードの云々練習だけで方々余りとて云々の
練習を重ねて我々の心を知り合ふ。それがで
人間の心が分かるか。

こんな事を言るのは、後から云々云々。どんか車に走る
自分のものかのつかぬか。と角現れた自分は半ば思つ
て云々。

第三回の我々五人の姿を今見れば、或いは表面的
には結構なところを見えてかも知れないが。

今の自分から見れば、为人名人、バラバラな
方向に向ひ伸びてゐるところを見える。

過去一年間、予科二年生の生活を振り

つるみさん、一件 あそこから手と得たの。

僕は 2の 一月から 2の車から遠い出し、現在 商迷で
ある。意氣弱き者と笑う者は笑へ、免へ聞く。今迄の
2の 実感のみでは自分は 生まれおかれておくあつたのだ。
加藤も云つてゐる様に 我の 態度が 食慾に樂天的で
あり、悪く云へば お目出たくあつた人ではある。
勿論 捕虜戦當時の 因縁を云ふのではない。
あの時の 我の 気持かくは無限の實り物を得た。
それを 陰ひの 言ひと見なされ。

戦2年2ヶ月の 空気が 予科三世玉跡、豫科部員
の 感覺があはざかわる。

八月以来の 予科の 表面的なだけの実情で、六月が
ひいて 退院となつたのではないか。

國車の場合と考へて見ても、國車が 戦2年 打明けられた
かつかの現象は、少しつゝに 当時の 予科の 空気を考へ
て見れば 自分なりと思ふ。

戦2年 國車かい 相模せいかね 様の資格はあつたん
でないか。

2の車の 国江は 目前に後悔の歴史を持つてゐたし、
これを 僕へ教へた人には 明けられである。

車の 跳球の上での 相模のみなら、それ以外の予
の心の觸れ合ひがあつたか。

戦2か今迄の様子 気持で かつて 著せたまゝは
何を 番手に 安はなかが 戦2かの 繼過だ。

後ひ互の感情、思想が 行き詰つた時に 2の部は
どうあるべき。樂と暮れゆく者は、一度強烈
か困難障害があへば、ホフキ 折れはま。

若み若み考へ考へ續せた、底力があつてこそ、それを
取れと來り越えてゆく事が出来るとある
かう考へ見れば、予三の 戦2年これ 破れたものは、
もっと、裏づけせられた 底力ある、強さではおからうか。
その際には 暫間 素めに要である。それと共に底から
の親友 友友がに要だと思ふ。

向月に ぶつかりの 練習、二年生の出缺が悪さのもの。
今迄云れ車からも 物の一端が去つたのは ない。
23書く自分こそ 全く後悔の念自重の念に附す
るのであるが、このよの 状態では 予三は
予科部員を引張つゆくことは 出来ない。
かと何とかしようでは 丁いい。

(左欄)

書く 資格もあつて 暫く吐ぬ 捻を失した。

16. 書く車が 徹て無 あつたまゝは 暫く
事じである。

しかし車を書くけれども、決して今迄の部の明朗性
が悪ひで ないで は決してない。

明朗 性は勿論大切である。

4月13日 (晴) ground 軟33

1. 1st kick.
2. running.
3. フィード オフ
4. short-kick.
5. long kick
6. running pass
7. shooting
8. ~~for~~ back-kick.
9. formation.

漸く天候が定かに香山 Park 四和田3.0

うなづけは軟弱の嫌はあらが 美日系の塔の壁に吹きこむ
雲泥の不相應である。

宿命のリーグ戦と曰ひ難い工氣は本場にてみる。
(乃は強が者を取るに極む。思ひ源流は人の底に於て)
精力がみなすれども如何悪く、薄汚れ物を志すは政治的
的見込みである。

運動部は必要ある。(かくは運動部を構成する部員のため)
これは源流はより後の慶應義塾で小学校であるが、一
ホールを眼で見、X-ray で骨をせんそす瞬間の支撑。
全くかくは運動部の意図である。萬念萬想の第一瞬間に
あり。彼は源流戦の勝利とされし始めて sportman
の精神を身を以て体験しながむ。

かの當時の事も想起される。今はその時代の情勢の如きを唯
心に想ひ出でる。林山の火事へ走り去るの時もまた同じ
事。此の時の慶應義塾は至るの如きであつた。X-ray
の精神を失ふべく、個人が与へる所を失ふべく、何より窮屈
なる。全くかくは運動部の意図である。何より窮屈
なる。何より窮屈なるが如きが運営の如きである。

(後半理屈と正論の争ひが甚しきに得られ雨漏れ飛
得る sportman の立場を察する所である。又説うべきものは
暴力ある程の源流戦は大抵、得るところは大きい。
而して最初のリーグ戦と程程は次第3の如き。
都是が大いに云ひ、嫌なはあらが 何よりの、
音には致せざる所である。

(床島 沢)

4月14日 (水) 晴

1. ショートキャフ
2. ロングキャフ
3. フォーメーション

和日 多科全校修練日の為、五時半練習したのである。

部生活の再検討が問題となる。之に僕自身の信念と
感の底から接がれてゐる。僕は部生活を愛かんとしていたからには源流の
理想は、自分の血を吐く所から其の上に他の者も一つの累計
されたものはいかにも思つた。之に之の事は僕個人の宗教でもある。
結果として最も正確にして最も正確なのが、今に至る。それが「單なる理想」
の「おかつて單なる」である。要する、シンドに程々の所の宗教であり、その場
以外の所では常に先駆者として抜群の才がありおかつて单なるものである。
思ひ出の如きは源流部生活を記録するに於て、源流生活の何物かを知
るのに容易な日々へと導いてくれる人等は必ずしも居る。去年冬の中等部運動
部生活の生々しい零星を記録、更入門、少子化等、一段と高い
高大跳躍部生活を生き抜いていかなければならぬ。僕の最初からの躊躇
があつたのが、生堂室に於ける書類の積み重ね。その往復書の傍詠がかけられ
おく。又強烈な白墨板、黒墨の薄い紙が流れ来てゐるのである。

元来僕は、鄰の活潑な口語等の操りを持つてゐるが、生まつて以來、性格も人に支配されてゐる。僕の何かすれば、皆が喜んでうるさくなるのである。その他の何か可憐な事、自分の方から積極的働きかけをして、漫遊と活動して居る。

新利三の死りは表面的だと云ふが、其の死後は、浦萬郎の時に著しく見られるに足る、御負担足りなくて、嘔きかけたり吐み嘔向、只一人も蘇復できなかつた時の事から古墳に埋められたのである。この時新利三はまだ死ぬのを心配して、常勤の力で死んでいたので、憂慮かう。神社から来たばかりの僕は、色々他人が如何に働きかけてお母の跡を継ぐかを心配する。余りにも憂慮的で、かうして、自分の方から積極的に他人の生活に働き込むのがちがひなかった。かくして他人の生活の中に飛び込んで、隣り居みながらの和やかな人生、又花を散らす時の気魄があつたのが、新利三の死後、その内容を残してゐる。

僕は自身に不満を抱いて、どうして強くいかないのか、どうして柔かくいかないのか、他の落成者と比べて、人の多い不満を感じられて居たのである。自分で自己修業と思ふが、運氣の悪い事ばかりで、中時のある日は涙あつた。空洞の涙が下つた。何等落ち物はない、凹凸のない、縫合のない、平坦な、單純な道がある。だから他の人が悩んで迷つて、迷ふと自分の脚が迷つて、星つぶやくと夢へて、色々努力せざるが如く、尚且つ迷つてゐる。

一個の晴天を仰ぎ見るといふ、山顶に到達道はいくつか。道は一つではない。この道は、おれの心が他の人の事にめぐらえを知らない結果である。自分の道を進むのはいいのだ。自分で自分の最も直捷的で、最も簡単の道しか通つてはいけなかつた。

自己に主義といふのも居よう。裁判へも者といふ筋で居よう。併しあいつの人達も僕に手を差延べて置かなかつた。僕の力の不足——他の活潑なもよどつ考へて子供を知らぬ——と捕縛して置かなかつた。僕の過激、ノ漫遊を指摘に置かなかつた。僕自身といふ人間の愛想をつかしかつかも知れぬ。

僕は新利三は自惚小さがれのことはあつたが、理想とか確信とか付合つかつてゐるのは、さへも“自信”といふ薄いベールで覆はれて、貨物ではあつたらうか。気が付かなかつた。松岡の新利三の死へまわつて直接に本件の方へ引かれた時は、御、何で意味はないだらうか。僕は相続の資格ありと見ての理由があるのか? それに僕の資格は畢竟いつか?

羅密の霧が蒙る、僕の身体全体を包むまゝ、僕の存在は果て商取取扱、御の行動力の運動でもしてきなうか? また今何が、附与と別ひて再び起つて、他一人の人生がある。まだ、数多の新利三の人達の生命の方々がいる。その大半が、命じて死はねて、無駄死で死了つたのか。

春雪と運動の問題あらそひは、僕の他の地上の一組の存在は、人の個性を失つて取られてしまう窮屈だ。“みんな俺が悪いんだ”と“み合病中の流行”を象る此の階層は、自分たちの自己の語言を奪へるために、どうぞしてくる。今度は行山ル一人で登るが、じつにジガ一人で居させた。併し、新に次故に、これが何の事かの道が、愈々入りやすくなる。余りにも抽象的であつたが、それが具体的で、實証的で、活けるべきものである。又一面、僕は抽象的で、概念的であるべきものである。

片の簡大路は林の地位考へて減じて判と呼んでしまつたが、これが、小学校と以前の権力へと組合せた瞬を擇てた時に、大邸町附を定めし。小学校の道へから卸を立つて、林屋町に消えてゆく。但し、當時に罪萬代の地主と澤金之助、新利三の落成、おれが山門を出る。宿舎は

。これ一派の獨裁方針が爲して人生の迷いに生き抜かうとする貴党方生産を前進。それが是非とも落成の可否(信)ればみるま
(私記)

4月15日(木) 曼谷 現地開聞。

1. 依頼
2. フラワー一周
3. ドリブル
4. ポートホール
5. パンダ
6. チンパン
7. ニードル
8. バッフル
9. フィーダー

感想なし。書類なし。

(私記)

永倉の代りに僕が書く。今に至つては俺だけ此の予科に鍛けたるものかわからぬ。何の不足かある。(かしからぬ)。昨日瀬藤さんに途中からではあるが割戒を受け、又今朝竹山からの手紙を見て、また俺達の責任が重大な事かわからぬにつけ、自分に全然無策的な事が、いはゞ情なり、一々一思ひの部を止めたら気持ち良いからと思はね。しかしそんな事の出来ない事は明白だ。とにかく考へなくちやならない。何が何だからわからぬでも、とにかくアガハミよ。佐藤と永倉の記を見ると、裏表は予科部員の心から接觸が無いといふことだ。又竹山の手紙を見ると裏表が確かに一部を成る。又惱む者は取つては其れそれには他の原因を持つてゐるかも知れないが、それらの原因は部員同志の兵の和さへあれは大程度解決出来るのではないかと思ふ。一つの原因かわからぬ。何時迄も抽象

論や懺悔文を説いてゐるが、早速其のに対する具体的な解決案を考えやうぢやないか。
いはし初の缺陷と云つても、それは餘りにまとめてお過ぎた原因だ。何がそれの根本的原因となるものか、いついつあり得しならぬが。俺はこれを考へ是を一つだけ考へつた。一つは学問的なカンクニ氣の缺陷である。殊の予立て二つは黙著である。予科部員は名目上人では仲々勉強しているものかあらう。種々な本と讀了したもの多い。しかし何か何等思想的なものになつて其の人の自身を益してゐる事がない。軍の知識といふ點は止まつてゐるに過ぎない。従つて眞に自己の肉で打つてゐないから、やがて人柄といふ他の接觸は表れる事がちく、部の中にはカンクニ氣を起さない。部員同志の話題となる事も少い。むつと此の僕の「性質」を最も缺いた者であるから、やがては話題の觸れること(或ひはやうやう話題の他の部員との間にはあつたかも知れぬが)自ら並べた。せいいへん僕の聞いたのは書祥達である。従つて本当に心から獨身といつても、部員同志の話題や他の真剣な氣分と一緒になかつた。真剣な氣分と云へば軍のグランツの上の限られたのみ。グランツの上の眞剣な氣分と云つては他のとは異なる。全く理屈無いであつた。其の時間

を過ぎて暇となつた時に必然的に心は勉強の方へ向ふ。しかし部内の空氣とそれ何とかため、又体の疲勞もかゝつて、自然と勉強を怠る。しかしそれで我々の勉強に対する慾求が薄くなつてはならぬ。シーズン・オフといひ傷病の休養の休みといふなれば、怠るよりも起つて来て、勉強に要する時間と奪ふ奪ふといふ練習を嫌がる他の部員の練習後、雑談も不愉快さを増すばかりである。それらのことは打明けの人も居ながら必ず部を止める事がある。ひとと予科部員は車で済まし、ひとと車の済み方を変へやうやうか。又シーズン・オフ等は其等を中心として会を催す方が良い。長瀬、久保の次、川麻薙まで、一部員の親交を計らふ云々。我々は年段と云つては語弊があるが、解決したうの一方法として讀書会・座谈会等を造り予科の思想性を増し、親交を計らうとしたいと思ふ。

第二は意志の弱さである。俺達の練習は確実の事である。練習が終れば相当くつたりとなる事は事実だ。そして此の苦しさを逃れたい、練習に出来ない。此の氣持が一人人の心の中、微かに、意識的の部から遠ざかるとする。部員との接觸を可能に避けやうとする。或ひは、此の練習を今迄續けて来た俺

達が一年更二人な理由で部から遠ざかるやうな事は無いと思ふかも知れないが、しかし此れは臆念であつて、俺は取つて又恐らく彼の部員は取つて事実だ。然て此の意志の弱さを匡正する事が練習の最も重要な目的の一つである以上、何よりも先づ先づ克服しなければ殊更に苦しい練習を行ふ意味は無くなつてはならない。約3箇月の直せと行つて、今年二人が苦しみを経てすむものである。年更問題とする必要はないかも知れないが、しかし退部しない者は此のやうな心の迷ふらうの決心を抱いてゐるだけ、此事を良く考へて部生活を築かれ得いし。我々と自分と他人が迷つては投げ入れるやうなことはないやうだ。特に注意しなければならない問題である。

第三は時局の問題である。

我々の鍛錬は依然として立派の身心をつくるものである。現在行つてゐる練習の慣習はとにかく切迫した時局の要求に反するところが多い。たゞへきの要求がむづむづする者たる現眼のち計畫を立てる。我々学生は可成く其の底を成る時の流れを着目し、其の眞の趣旨は前よりやうに行動すべきである。3300。年12月

の方面に於ける真剣な行動も又都生活の
重要性一面を打つて自分は思ひ入る。乍らの
都生活には單にサッカーの練習と其れに附
連隨する日常生活の探求といふがつとも失は
れぬのが、これから都生活は其のやうな自己中
心的な、社会の流れに対するセント的ものでは
許されない。又其の流れは眞に順應すれば之
は在者に都生活の求めりもつて得られるつ
であつたうえ。自分は今迄は小さい事ではあるが
学校の行事とくの相違の一端起度に
其のやうな感情を抱いてゐる。併合して、悪い
向違へ考へて胸の中に殺じ来た。しかし
今考へ見れば他の人の中れもし此のやうな
考へかあらば、一考を要すると思ひ。

才四は利己心である。

都生活を行つて行つて以上、利己的の行為は
当然排撃せらるべきであるが、それが一部員
全員の心の中には確からず存在して、都へ対
する徳性的な自己の犠牲といふものが出来
たの状態である。この犠牲といふものは従局
は自己の為となるべいあるが、理論的には
うわがつみても、凡夫の想は、いさゞ自分に
都會の悪いことをないと、悪いと意識したくとも
避けてしまつてゐる。従つて本当に部員相互

信頼が無い、相互間に信頼の念のない
親友などは無い。部員の心地の離れた
原因である。此の問題はグランツの上に立て
を見出されたのである。

以上、四つ舉げてみたが、以て見れば其の四
つもあるやうにも考へられ、又無いやうとも思はれ。
又此等は原因であると同時に結果でもあり、
完全なる部としての條件は他の方面にある。
此の四つは其の結果として自然消滅するもつて
あらゆるも思はれる。しかし以て四つが一部の
團結の妨げられ難いものとなつてゐる。
それで著書へ見て次第であるが、自分として
は未だ漠然といつてゐる、何の不安も持つて
去らざつてゐる。又現に退部を決意して
ゐる人々は此等多く遅まく退部する
従ふ立たないとも思はれぬ。其の人達は村に
は自分に全く無縁である。何等引取止める
爲の言葉、自分は不安定到心の出來る
自分考への不安定としために他人と説の
才の自信一失去する。新しい一年生を
さへ入部を勧藉歡請の出来ると自分であ
る。

(カ)人
俺達予科三が一年生 都生活に対する懶け
を抱かなかつた樂天的の氣持はどこから来たのか
自分に因もつけきりしない。

四月十六日(金) 晴

1. 体操、2. ランニング 3. ドリブル
 4. ジャート・キック、5. stone and pens
 6. ティレル・キック、7. ランハーネス
 8. バックの跳り合戦 9. フォーメーション
 10. ランニング。
- 明日は2回つた対明大練習試合にて全力で走り書きで勝ち。 (カト)

以下佐藤記入

8時半頃部員は重大な時機に降臨している。
これ混乱した状態の種と蘇れかが、この後ではありか
思ふと、今リード戦に熱中する車両部員の人達に対する
誠心申し訳がある。

然し、車両部員現地では従来の慣習を述べて時を過す
は時ではない。今から車両部員再建に実行しようでは
ある。如前。車両の種類の原因今も眞実である。

8時半は、唯一人旅立つ事入力もべきではなかったと
言ふ事が。これを経験した自分には、これよくわかつて来た。
自分は何か摸索した事で、これ皆が部員で書かれた
角川義之会議報告中に「明瞭」である。

竹山が独立してゐる。部外人の個人的問題といふ
気持は、この目的にはよくわかる、今後進むる立派な
方である。

要する竹山は、この部員の目標を失った人は多い

がさうか。又8時半上復古。特に予算三回信頼を置かなくていい
だと思ふ。一時の情熱を以て躍進する船とむきには、
必ず其の速さが命運を叶へる。この時は船を色々と温くし
やうのは、同僚の温い心からの友情である。

竹山は、松岡に33. 部員33. 热意、愛着。薄いがおもに
8時半予算三回を盡させでやっと、信頼を温く故にやう。

自らは、危うく、狭い意味での学生生活に落ち込んでも、今
それを踏み越えて生き残りがある。専門大学入卒、この学校の裏面、
特に車両部員の缺員が多いため、達成目標へ向けて、サボつたり、
自慢したり、実行上も手をぬぎ弱い意志に疑問を持つられる
が、この臨時局下の學徒として心苦しい事が数々感心
される事もあつた様に思われる。

8時半同日午前、青年が、眞珠亭にて、あいだけ、
15分の振舞を行動とと見えた、向いたりする時、
自らの至らぬ事に違ひに愧ぢ入る次第である。

8時半近頃舞合は、目前より直前にあたる舞合。い
いふ所で8時半が立派な人物といふ行動には、実力の
伴はれた力量、確かな自信と信念が必要だ。

彼のこの力量と信念とこの部員が得ておらず多く
いる。独立の機会を窺ひたいとは思ってこま
まに才氣が付けてゐる。

8時半は、明日は空襲警報をどうあらそ和水さん、
2時半まで、安心して、災害に対する抗し、それと

單なる私の信頼、強き志と勇。かゝが必要と思ふ。
この所も時局は單的立場の考へたがれ手。
これが單か徹かおがけに頭の中にはいませぬ。又う
感じせぬ氣ですれど、記念次第ある。(後序)

四月十七日

明治大学との練習 match 都合による停止。

1. 体操。2. グランド一周。3. dribble = 回。4. full
- back 三人に分けて dribble。5. short-kick。
6. long-kick。7. running pass & u" criss cross
8. shooting 9. dribble-shoot。10. backの跳び合。
11. 6人制練習マッチ。12. グランド一周。13. 順番ク回。

この通り予想の如く書いたが、今は始めて見たが、予
ての予想は全く違ひ、眼と脚で書いたが、今更教
へられることは無い。最近手の連中から離れて、あたみ、油
浴せたかの如く運びせんとするには驚く。しかし、單なる冷淡
な傍観者として腕をくんだま、手足をこねる僕は一伊、何
ぞ人間ぢやない。この度は運びと自分を自分で見つけて
は結果何うなりやうと心配しないが、今迄何時差
づれの一人一人手筋の差をうつて来た僕は云々など、さ
うした、云々である。二人とも内心の苦悶を抱げば、このま
ま前へ行つてはいけない、差を以てつまらぬ人間にあり得るつ
て思ひ、と單に思ひながら、生來の予備筋別に何の努力もせ

ずして居る。113.3.3 手帳。同上。どうぞお目に見え
る所の隨意に随り、道には外の事ではござりません。
これは下級生さんか、と263.3.3 手帳で云々とあるが、偉
いお友達をいたい。落成祝い手帳が付く資格となり。
併し、一す書く事にて。

思はば、商大球部は今まだ危機に瀕んでゐる。
293.3.3 手帳。最初からぐうつてゐるのだ。田舎の太手
を引いての御賀のだらしなきがさまであるのだ。
いかにも表面上は、眞面目さうである、第三者には或程無
と云ははれない。併し手帳内には裏面を読み取れ。

今既に手帳の丁度まだつたことは、我々の手帳には血の15
才からある激しさがあると聞く。この現在は全くその野毛
でゐる。恐らく僕達の先輩は毎日の血の15才から徐々に
練習でグランドで走って磨かれてきたらしくだら。あれにて
ものでなければ、名人の眞の強烈なほどのものではない。内心
の相撲はうじた度の事と云うには決してない。人を殺すの
ために動かされたのと、渠である。つまり、人肉の真心である
現状グランドにある、自分の弱さに15才までつづけられた。渠は
何人あつたらいい、と云う事は渠が渠の弱さと云はつて、今の渠
を激しさのを、練習をつづけるのが僕達である。渠は殺す。僕
達である。誰もが渠の弱さと云う。何と云う事かと云ふ事
を云ふ。これは度外なる、純粹を莫じかる。たゞ、渠
だけは渠を渠、渠の弱さ、渠の弱さの弱さの弱さと自己の
僕達の浅はくも表面の交渉の所であつて云ひつけぬ
事か。

俺達はこれまで嘗て一敗せん。

二人を手書きの手本。下巻は承認する所。

しかし、その取扱を初めとこれから、このままでは高
貴地無む。と云ふ男たる處へ向かひたから可笑い。

心から泣けず男にちじゆく。 (附記)

四月十八日 快晴。

- 1. Dribble 2回 + 1回
- 2. Short kick
- 3. Long kick
- 4. 2:3.
- 5. Shooting
- 6. Backs 背後
- 7. Clearing
- 8. Formation
- 9. Running
- 10. 懸垂。(先自由。7回)。

蹴球部は夏期の生徒の宿泊である。又蹴球部の練習日誌
を見ても實り。特に蹴球部の宿泊の手配から、蹴球部の練習日誌が
見られる。強く強烈に元の感覚を發揮するのは難い。

練習日誌は部員の真摯率直な告白の場である。生徒若く、精神を
偏らぬ者、又漠然と語る者、據撫取る者等があつたのである。
蹴球部の宿泊は、何の波瀾も無く(2回の事故を見た事も無い)、
相性良好。

蹴球部は蹴球部の作業や日々の計画を示すもので、
運動の生活、自己生活を極端強化する事を最も目的とする。意識的
反復して、意識的活動が当然表れ、時に直面される以上、
精神高等の生活態度。僅か一席の危惧を抱いたりするも亦
當然と云はねばならない。

最近蹴球部の向むきの内歴加蒙生、不本意にて、諸君等の今後の
警慎加一時の大爆發(五ヶ年)をうかが。

諸君等は述べておられた様に此の二年間の体験があり、本件の日後は皆見出
る一様の危険が存在する。或は、既成の既存の事は、何れも嬉しい限りで、
假設、諸君等の脚下が方々浅く弱く、又、或は不の方向に若干の強さはある。
体験が生れた、足を地に付けて眞面目に及ぶ。僕が主として云ふ事は、却て
此の神聖なる運営の様な氣がある。

諸君等は、今出来たことのない事には一毫の遺憾なし。
之からの精進次第で実も疏ばうし、花も咲かせ得る事多きである。

君の練習が苦ければ苦い程、自分の弱点を如実に見せつけよう。練習
とは、人を物語る方法。併て同じ様に、君の「うそ」以外の実績が苦い。又、
没有が敵いければ敵い程、君の弱点が見せつけられ、又空虚の極大強化の
形である。

練習も生活(13才-14才)も生活であり歸る所は一つであつたのである。

練習の席位や如何な形で懸念を以て他の生徒の運動が妨げたりしない状況を
うかがう。練習は一日、僅かに2時間の三時間半の運営。練習が行はれたる
時は極めて容易である。

莫宣の生徒の居る蹴球部は、如何なる些細な問題も生じぬ事
が「公論」である。

意識とは意識即勉強也、此の言葉は「かづき」と呼ぶ事である。どう
ぞ慕うよりは実現する、此の言葉は古人が遺した教訓である。
常に僕は「足を地に付け、在りて云ひ、又加藤が「算」
の知識から體の歩き方を学び、過ぎ去る迄、僕は自己の胸に在つてゐる……
と云ふ點が云々様だ。一人の人の生活の根底と云はうか、人間としての地盤と申

極上物は、甚しう生派からうるい。生派の向から獲得されるものであつて、生派の
豊富な熱から此の地盤、根脚の廣々と太々が得られるのがである。
此の豊富生は、熱なる地盤があつての言葉である、行動である。

精神の端景 今、此端景はまづ端景の精神の指向の一つとして。

生派を列 富富の事、即熱熱の事と向思ひせしむ。

豊富と大成熱の事、生派の有者を浪費的経済的有者は事はない。

(漱石記)

やんか練習口語は嘔吐しめ、嘔吐しめ詫す。

嘔吐す嘔吐様、一言一句の人の味が出來る、違ひない。

四月十九日(月) 雨

- ショートキツツ
- ロングキツツ
- フォーメーション

川端が一昨日の部誌に「誰かよ」退部^部レヤシと書いても
何とかしてさく元に戻エシとある。そこには「度モ純粹な
真心モない」と書いた。全く俺に取つて最も痛い所を
つかれた氣持で愕然とした。今度 部で一番孤高的
で自己中心的でからにはあらうもつてゐたのはこの俺では
ないか。何時も本在と流れてニヤニヤに居て他人の
氣持や悩みなどに気付かず、気付いても知らぬ振舞
である。其以上は全く真心が缺乏である。~~俺は~~

X X X

皆が眞剣に力指してゐる。それだけ俺はどうしても

自分と以て見極めて評価する雲氣がない。しかし若
物には蓋と云ふ態度である。俺の自尊はそれをお
けるし揚げを不可能にしてゐる。

X X X

近頃 俺の心の中には生えてゐる考へて皆に批判し
て貰はうと思ふ。

それは 俺は日本人である 恐れ多くも陛下の赤子であると
云ふ自觉である。たゞが日本~~國~~が一学問をやうのそ
蹴球をやつてゐるのも之に依つて身へを鍛錬して陛下
のお役に立つ爲である。我々日本人に之は 署なる自己
完成なるものはない。自己が國家大君に結びついて
自觉されてのみ自己完成があると思ふ。

かやうな考は俺の中にあれ考として存してゐるつて方で
未だ裏附か足りず他人に解らせる事などは出来ない
そしてこの考が署れ觀念として取扱はれたら 非常に
危険なつて此位危険なものはない。~~國~~ だが
俺の祖先以来の血がエラ感じるのである。

X X X

俺の頭の中は混亂してリともない。日本人だと
感じて昂然と頭を上げるが 次の瞬間にには身
の無力を反省して見て頭を低く反れる。绝望した
と思へば自惚である。俺は一体何物であらうか。

(最終)

四月二十日(火) 晴

今日は予科生及本二水立川へロカ行様、良常のため練習を休んだ。予試合も近く控えてかや3件事は初めてのことである。これは先に加藤の立った臨時局的行事と練習との關係の解説即ち我々蹴球部が眞に大戦下の学生の团结として本筋として重大な意義を持つことである。が故も将来射手の学生として眞に意義ある催すらば以どん参加する事によう。ことに参加した以上はその意義を正しく認識して全校の模範たる行動をとらねばならない。

四月二十一日(水) 晴

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------------|
| 1. 体操. | 2. Ground一周 | 3. Dribble (2回+1回) |
| 4. Short-Kick | 5. Long-Kick | 6. 2対3. (2回) 3対2者 |
| Running-Pass 3回 | 7. Shooting | 8. Back, 選合. |
| 9. Clearing. | 10. Formation | 11. Ground一周. |
| 12. 異常 (太白七回) | | |

本日瀬藤主将より、リーグ戦、ハセヌ部省よりの連いにより、撃打不能に至つた旨、話しかがつた。我々が今迄目標としていたものか、失はれては力がある、力が一時に抜けて感じかず、併し我々は競争の自己周りの運営せる財物の運びよく考慮いたよ。かくは、單に後輩のリーグ戦、といふ事ではあるてはゐぬ。其之れは、日本といふものが、向づて在亡せりかかだいに傷跡をかけた。我々は比較的新しい部生活といふのを創造して

かねばあらぬ。ヨーロッパも單にヨーロッパの民族アーバン化であつて、今迄樂々上りてまた素地を元としてピラミッドを築いてゆくべきと思ふ。従来の練習の一つか、即試合であつたが、此の度訓練は大に重へおかねばあらぬ。さて又従来の豫習が既に既に部、互に方とて消せばは豫習は單にミサレに過ぎぬからか景念もあつたが、此の豫習我々は大いに豫習を強調しよう。豫習にて一つの意欲を持ちねばあらぬのである。滑走路生き抜くには、これが以上の激しい意欲と實踐力が要なり。我々の今後の互に方は既に既にして創意しておかねばあらぬ。

四月二十二日(木) 晴

- | | | |
|---------------|---------------|----------------------------------|
| 1. 体操. | 2. Ground一周 | 3. Dribble (2回+1回) |
| 4. Short-Kick | 5. Long-Kick | 6. Running -Pass (2回) |
| 7. Shooting | 8. Backs, 選合 | 9. Clearing |
| 10. Formation | 11. Ground一周. | 12. 鉄棒昇重 (7回.) |

本日鍛錬部並びに文化部の選組の總会ありたり。

我々は、我々の部が持つたいじりで世人のものでは不心得を甚だしい。我々は、今後の充実と責任を負う事へ意を、務めのものあり。今度部ではそれを生むを以て東京三、四の部との今後、磨き止めの所あり。その人達の心を測れば、無心ではある。我々の中には、その人達の心が入つて居り、その人達の心が入り、心が入つた所は確信する。我々は、その人達の尊い精神を生かし、それで土台として萬堅固な鍛錬部を作つて

物がいくつはある。今は薦められたばかり。薦められた時は、既に一
回も彼方に去ってはいないのである。我々は、只は実践あるのみである。
文句あり実行。それが我々は、豫備の支政に立つて實りする人がいか
ねばならぬ。銀錠部自体が豫備の initiative を取つてそれがな
ばならぬ。この銀錠部の中では我々は既に本部で他の先端を立つ
ておかなければいかない。本部では我々は此拠点で努力する必要があ
る。單なる豫備の外ではない。各校の授業にも、普段つまじめに取
れ、我々は絶えず創造へ創造への意欲があくには至る所だ。

我々が今迄の試合部の中に現われるのは、何等現われたる所では
ない。旧毅士と石原と私達は部生活への創造をいかん全力で注
ぐべきである。

破壊は易く、創造は難し。難き事は当然である。これは努力
であり所以であるのである。私はこの半年で豫備部と本部の再会
の出来に当たる。自己を戒め、自己を勵し、自己を起し、生き甲斐つむ
津生活を送れりかうと思ふ。他の豫備の諸君も、同様の生き甲斐
津生活でやれりかうは不可かと思ふ。特に一年生諸君に取つて是
が最も重要な事である。絶えず君を躊躇ひ人は、豫備の方一
緒に立つて活動すれば、おうちの方と自覚を強めて暮らす。
これが我々は、若狭の生活はモルヒネ厳禁であることはある。
冬村に置かる。冬村生活と部生活にて规律正しく生きて
いたがちである。絶えず日本を人材とし、日本が人々の手で育むる
實をあらわす人達に寄つて其勝てせり。豫備の方改革
は即ち呼吸せらるべ。井上さん。

(永吉記)

四月二十三日(金) 晴

1. 体操
2. グランド一周
3. ドリブル(2回+1回)
4. ショートキック
5. ロングキック
6. ランニングパス 2回
7. シューティング
8. バッフル ~~蹴~~ 跳合
9. クラリティ スライディング
10. フォーメーション
11. グランド一周
12. 懸垂 1回

四月二十四日(土) 晴

1. 体操
2. ground 一周
3. dribble 2回
4. short kick
5. long kick
6. running pass 1回
7. shooting
8. バッフル ~~蹴~~ 跳合
9. clearing
10. formation
11. ground 1回
12. 懸垂

三年生が色々と今二年に就いて書かれてゐる。その時甲斐在
今二年の状態と三年は自らの責任として痛烈な自己批評を
されてゐる。全く今二年は弱体である。之は認めざるを得ない。
練習にも出席率が一番悪い。練習と生命とする我々がこんな様で
何うなるものか。予三は後僅か半年足らずで本科生になつてしまふ。
高大蹴球部の根元でなく予科を戒みが予二が背負つて立つべき
時は間もなくいた。此いは状態で予科を引張つて行けだと思ったが
大きな内違だ。予二の諸君、深く反省にもつとしっかり生活して
行かうじゃないか。只でさえも人數の少い我だた、一人でも缺けることは
全體に大きな影響を与へる。眞實に生きる途にして部生活に
まつげらに飛び込んで行かう。部生活の奥底に流れてゐる精神は
決して時局の要請する所に背馳してはゐない。寧ろ何時の時代でも

震らぬ正しい精神であると思ふ。この精神を心の底から体得し味得して行かうじゃないか。眞にその中に没入し切らなうて徒に门口の所で狐疑逡巡する態度は止まう。

俺達予ニはもつと团结しなくてはならなかつたのだ。今迄は何の済み交渉のない、いはゞ鳥合の譽を云つても過言でない。頗る専柄だつた。

お互に一つの目標に向つて努力する時には心の底から囁虫合が無ければならない。實だ。そり實が殆んど缺けてゐたのは我々の生活態度が如何甘いものであつたかを知実に表すものである。俺達予ニが一致团结した縦りを見せた時が果してあつたうか。岡本の問題も皆俺達の足らず過ぎた實から生ずて居る。俺達は個人個人にて生活して居た。その間に緊密な連繫は少しそ見られなかつた。商大蹴球部と言ふ渾然たる統一體の中にあつても各學年間に特徴や縦りがあつて当然である。

寧ろさうなくてはならなかつた。去年の秋の浦高戦の時に予科全員の心が一致した。然しあつ時は今の予ニが指導を取り。我々は~~其~~それに隨つて行き~~て~~すれば良かつた。隨つて行くことは割合に容易である。

然し今度はそれだけでは消されない。予科の校心となつて動きやがては引つ張つて行かねばならない。俺達にそんな力があるのかさへも、疑はれぬ今の状態ではなかつた。

自分は今まであまりに自己のことを考へ続けて来た。練習中に兎角自分の弱さが出て堪へ切れぬ。你な心にならぬ事が常である。どうかいて此の弱さを克服して行きたい。然し自分には一體そんな力があるのぢうか疑はしい。こんな事を考へると益々自分の弱実がはつきり現れて非常に震ふ。弱実も構はず。さらけ出さずか。練習だ。いはぬづければ。やはり弱い心に引ずられ勝ちになつてしまふ。始終氣いかつてゐるのは

自分のことだけで。予ニは他の者を考へる余裕がなかつた。自分がこの試練に堪へる爲に精一氣いたつた。外の事を考へると練習に負かれてしまひさうな気がするのであつた。時には精神が居眠りし練習が日課となりくなつて、「何の爲に蹴球をやつてゐるのか」と気ついて驚いた。別の方面へ趨らうかとも想つたり。自分の心を抜きに、他に競争されてみた。こんな事のために予ニの没交渉があつた。然し今頃になつてやつと気付いたと思つてゐる事は、自己を拘束するには勿論必要だが、他の連繫なしにはやつて行けぬと云ふ事である。こんな事を知らずに一年間もかゝつてしまつた。~~併~~而も全員の心の一致を信條とする蹴球部の中に於てある。如何にもボンクラだと言はれよう。

仕方ない。ボンクラの所をそのまま「グラン」に現すより外の途はない。明日は明治との試合だ。勝つとも負けるとも考へない。只自分のアレイのあらゆる力を盡して味方に少しても有利にした。

此の前の対文理大戦の時の醜態を再び現す事はしたくない。

リーグ戦は名前はなくたつたが、実績上は強いくて震ふすに行はれる事になつた。明日の対拓大は拓大的蹴球部がなくたつたので明大を練習試合を行ふ。我々の努力を現すべきリーグ戦は拓大でえの通りにある。一部の相手を敗れなくて二部優勝は望めない。誰かが云つたか「その通りだ」。明日は我々の実力をためす試金石ではあるが全力で奮闘して行こう。

(高柳)

○

四月二十五日(日) 対明大戦 於八幡山。

商大 4 { 1 - 3 } 3 明大.
3 - 0 }

商大メーバー一

G.K 加藤

F.W 太脇 田野

HB 松浦

川端

高柳

奥村

安田

土屋

瀧藤

永倉

FW

明治をやつつけた。我々の実力はその眞酒を發揮した。今迄の努力が実を結んだと言つても良からう。然し戦はこれからだ。更に花を咲かせる迄は油断も隙もない。

前半凡下に於て最初に奇麗に一真先取したのは不斷の練習努力の結果であると思ふ。併しその後続けざまに一すじた

ゆるみから三真も取られたのは俺達の何時もの缺陷である。此の真ニギタハに是正する様努力したい。バックも注意を特に強め必要があると思う。

後半凡上になると我方有利に戦つてFW よく動き三真を奪つて勝利は我々のものとなつた。

試合が有利に戦つてゐる時は必ず全員の心が一致して居る時である。そこには少しの隙もない。然し一寸いた心のゆるみ。

それが一人であつても勿論全体の調和を破つて改め立たれ苦難に陥入つてしまふ。此の事をしみじみ体験した。

試合は心といじとの戦である。商大蹴球部全体が明大蹴球部全体に勝つたのだ。此の事は我々の前途洋々と祝福するものではなからうか

(高柳)

四月二十七日(火) 晴

1. 体操 2. グランド一周 3. dribble 三回

4. short kick 5. long kick 6. running pass 二回

7. ボルトでの kick 8. 跳合 9. dash

10. ground 一周 11. 鷹巣 (7回)

予科三は勤労奉仕、土屋さんは徴兵検査、安田さん、荒川さんは病氣で缺席し、すこぶるさびしい練習だつた。

長らく部誌から遠ざかり、まだしあく書かずによるやうと思つたが予三はるないし、高柳からおしつけられるやうにして書く事にした。

予三の諸兄は僕に対する非難をば毛頭念頭におかず、先づ部を解ボウシ、それから自己反省に行き、皆痛烈に自己を非難

しておられる。予三の諸兄が二ういふ態度をとる時、我々予二是どうすればいいんだらう。特に俺はどうすればいいんだ！只「齊みません」の一語に盡きる。

此機會に僕の部生活の経過を述べやう。クラスチャンが終つて蹴球部に戻つて十日足らずの頃だつた。我々の大先輩松本正雄氏が寮に於て一場の講演をされたが、その中に、「予科の沈滞を救ふには、予科生は勉強か運動かどちらかに徹底すればいいんだ」と言葉があつた。確固たる信念をもつて入部したうでない僕にその不敵感といふ言葉は如何に重圧をもつてのしかつた事だらう。それに他の上級生から「我々は学生たる以上勉強するのだ。運動は從だよ」と聞かされた矢先である。その後部屋長とこれについて話してみると兩隣の部屋長も来て、三人で盛にメタフィジカルな言葉を使つて話したが、結局僕には、各自の生活の誇示乃至は辯護、そして勉強が主だと云ふほのめかし、としかとれなかつた。僕は彼等も言つたやうに「自分の問題の自主的解決」をすべく、練習に出たが、すぐ淋巴線の手術で入院し、結局一學期の間の部生活は猛練習に効戦されたのみで、自己内部的ほのものは nothing だつた。一期の試験をノートにして、やつと終り、二期こそは覺悟を新たにして合宿に臨んだが、足の故障で妨げられた。足の故障がほろと馬鹿に身体の調子がよく、部はその時、実力不足を熟知しているから王・碎の意氣^{ノイギ}予科に臨んでいたので、張切つて練習が出来た。

同時に部生活に対する信念も徐々に形成され「蹴球部

生活は強くなる事だ。自己の内心の誘惑をはね返す強さ、男らしくない行為を斥ける強さ、他人の不正と決して妥協しない強さだ。我々の人格練磨の目標が圓満を最高としてゐるならば、その過程として闘争の時代、即ち男らしい強さを要する時代を必ず経なければならぬ。この闘争に免まぬかずば圓満の境地には達せられねば、達したやうな顔をしてゐる奴はカムフラージュのうまい妥協者に過ぎないんだ。俺達はその強さを得るんだ。文化部の奴も論理的究明で思想を石賓固たらしめ強くなるかも知れぬ、或はそつちの方か、深味のある強さかも知れぬが、何といつたが、こつちは体で汗で得た強さだ。こつちの方か根ざし方も強いし、きつと邊かに違ひに違ひない。強くゆれ」といふ漠然たる石賓かにもつて練習した。それです、あいつの練習振りをつたから朝笑するより外はない。或時は自分の弱さに妄想をつかし、又ソクラテスの言つたやうに、「自分の弱さを知つておれば強くなつかも知れない」と自己慰安をしたりした。詰にならぬ程度弱い自分を一年間引きずつて来たのは全く上級生の自分と對照的な逞しい強さであると思つてゐる。さて、只勉強と運動は充分両立する、又さうでなくちや嘘だといふ考を抱いてゐながら僕は寮で少しもとは云わぬか勉強しつゝかつた。シーズンオフもボート過した。内心の苛責には「運動でもれだけのものはまあ……」で、ごまかし、太々しくも、一年位遊んでいいぢやか、「若い僕等の命の春よ」と歌にもある、遊んでしまへといふ気も背底^{モチ}わればあつた。いや嚴格してゐた。二期の試験も終り、殘りの問題になると、僕は幾多の缺陷を(終生忘れない感激を與へてくれた浦高戦も榮ある勝利をもつて幕を閉じた)

持つてゐるからも、充分それを補ふだけの価値もつてゐる寮といふ生活を送る生活地盤を離れたくなかったし、部屋長も「君は下宿したら孤獨だらう」と同情的立場をとつてくれたが、自分の不免強考へる時、どうしても殘廢願はせず、下宿で勉強を今年こそやるぞと誓つて飛び出した。「僕のやうな何々取柄も無い奴がもし強要されたらどうなるんだ」自分が或意口末で重複させたやうな部屋長にちるはかりぢやないか、馬鹿野郎しつかりしろ、今年こそはしつかりするんだぞ、そして勉強するんだぞと心の中で叫びながら。

つまらない事でタラタラ長くよつたから以下簡単に書こう。
辨解めいた事以下長く書くのは無用だ、それに自分が未だ確固として断言し得る決心を持つてゐるから。

僕の目標すのは銀録と學問の両立である。家の事情からも學の方への偏りはあるが運動に偏る事はない。しかし前一年両立が出来たか? お前の性格は運動部生活に適すると思つか?

弱いお前がついて行けるか? 等の煩悶を眷り合宿をやりながら考へやうと思つたが家の用事で遅歸した。馬鹿馬鹿、家事上の煩悶にて惜しまれ、早く部生活に歸りたいと言ふ手紙も出したが着京の翌日岡本に會ひ、一年の部生活で一番親しくしてた彼から顛末を聞き考へさせられた。そして竹山がやめると言ふ言を聞いた時「しまつた」と思つた。「お前こそまつ先に止めるべきではなかつたか、フラフラした気持でフラフラ練習してフラフラ引きがられて行つてどうする積りだ、新入生が大勢いるぢやないか? 予三はずく本料うぢやないか? 二

いふ一部はとつて最も大事な時に止めるつて裏切行為に等しいが、しかし止めるのは今だ、新入生入つてからぢや部にはほ悪い」こう考へると又変なものでやめる理由がいくつても出て来た。予三の反省してあけたやうな部の缺点が重なつてあつた。それに両立の問題は勿論、格の問題が大いに退部の決心を固めさせた。裏切的行為の恥を忍んで、決心をして蹴球部の人々に會ふ川原亭で退部の決心を打明けた。「予三に詮さるかつた」は予三を信頼してゐかつた参考人でもない誤解である。以下はほほ簡単に書かう。

要するに、第一は両立を不可能と暗黙裡に認めた形になつてゐるが、果して切迫した感情で勇猛心を振つて両立は自分が努力した事があるか? あつたと思つてゐるが、深く考へて見ると決してないかつた。第二に部の上級生に會つて詮さずとも済まない感じが先で、「何を俺の生活にうつす重大問題に対するツベコベ言ふんだらう」といふ反感が少しも起らなかつた。それだけ自分の懃みは微温的で七刀迫してさかつたのである。「これで安易な誘惑に陥らぬと言へるか? エイ、又フラフラして來た、退部していくも無理だな、今の中には飛込め、二人は氣持で飛込んだのである。

快く自分を包容してくれた部員諸兄に感謝すると同時に、勇猛心をもつて生活に精進し予三として部の義務を果す事をもつて、お詫びします。

自分は決して決して安易な生活を求めてはゐない。部員諸兄よ、俺を取柄のある人間にしてくれ。

(松岡記)

4月28日 小日向

1. 1. 平擲 ground - (1)
2. dribble
3. short-kick
4. long-kick
5. running pass
6. cold, shooting
7. back's kick
8. dash.
9. ground - 固
10. 地盤重

午前中、運動場で20名の日本と同様実行する人數で行われた。一回試合は20分で終了。groundは直角のirregularな形で行われる。

コロナウイルス甲種合格。 10月角あけていた。

食事はどのくらい痛めたか。 食物大切だ。

安田さん、森谷さん (同郷)。 食事と運動心。

Y. 1月29日 練習は皆で協力してやるがよ。

これから一年生が入って来る日が近づいていた。僕も新入生と同じ気持ちで、季節の運営を楽しむことを心にしている。

要あるいは他の会員も1月の生活に喜んでくれる事を目標とする。月齢制の一歩ずつで成長させることは、常に安全第一に向かう。しかし、これは常に自己と絆をつなぐことである。そのためには常に自己の立ち位置。次の年齢で成長し精神で生きることに、自分の成長はいい。まずは磨かれる。

これまでコロナウイルス甲種合格を実現することができました。

(+2)

4月29日(木)晴

1. 1. 平擲
2. ground - (1)
3. Dribbling
4. short-kick
5. Long-kick
6. Running-Pass
7. Shooting
8. Backs' Kick
9. Sliding-tackle
10. Formation
11. 景色

三日後に控へた試合と前にて練習を終り、まだ二分の動きを得たエキシビションを行なわれた。安田さんの音楽に吉橋さんから歌はかり、目次をかけられ、進歩の音を歌はれた。奥に角間大輔が体部は攻守は星だけしか人高か居ない。最後一個月を30秒走り50m以上准々速中で不遜の可故で倒すのが分かる。これからやる人を大いに心に練習に励んで下さい。

4月30日 (金) 晴れ

1. 平擲
2. ground - (1)
3. Dash
4. Dribble
5. short-kick
6. Long-kick
7. Running-pass
8. Shooting
9. Backs' Kick
10. Sliding-tackle
11. Formation
12. Dash
13. 景色

部活動はおまかで練習し合ふ場である。底の底を曝け出し食はねばからぬ。俺は4月22日工場で一般の人を強打した林子負かす。自分と背負はされた林子、2歳名と、さすがに2歳の強力さ。逆行だから火薙を立たずかはつたり脇の中へ落とした。結果、一日一日の寝床で、20日29日の生理工廠で、深く腰下げで元気な甲斐加藤と寝る日々が暮れていた。林子は生半端かげつけられ、軍手の影人形みたいであった。内に絶えざる絶えざる腰と腰への息吹まで胸を震わせ、只管に二度と立ち直れない。御贋物か有つてそれを張り替えてゆくだけの身である。毎日へと美しい腰、これ達る以上に、自己鍛錬の苦難をここに生き抜いていくことを決意した。

(永倉記)

5月1日(土) 晴

1. 併球
2. running
3. dribble
4. short kick.
5. long kick.
6. run. pass.
7. shooting
8. backの蹴合
9. Dribbling test.
10. Formation.

北方かい暑い石ケ塵を揚エ上げる。

対法政戦と明日にいかへて、軽く練習とあがみ。
戻りオ一戦だ。

どうかいつかりやへくれ。

一戻 胜利は試合を先にリードするのを誇成する
うが。その後、一すれ叩き分けられ、敵に数度を許
すのが、近來、我々の弱点である。

この負けは譲さぬ。なんと頑張れくれ。

(左巻)

5月2日(日) 晴

対法政戦(リーグ戦オ一戦) 於 商大予科グラウンド

商大 7 | 4 - 0 | 0 法政

商大メンバー

GK 加藤
F.B. 太田
鷺野

H.B. 松浦
川端
高柳

F.W. 奥村
宇田
土屋
飯藤
永倉

(前半)

(前半) キックオフ後 商大 勝利し押エれるも盛り返され
松浦ロングショットにて一戻玉先取、其後三戻を入れる。
(後半) キックオフ間もなく敵のF.B.の反則により判定得
点を得、又 ~~一戻玉を入れる~~ 其後一戻を入れる。この辺りから
商大少し江山氣味であったので押エれた。然し
法政全く闘志喪失ひ後半の終ス一戻を加へて
完勝した。

リーグ戦オ一戦幸に大量得点を挙げて勝つ事が出来
たが、元来試合と言ふやつは勝ち出すと調子があ
るもので、弱から強か入ったと見つて安心する事はない。
殊に恐いのは法政は二部の強豪と稱して
ゐるが、此を破ったから後はかいつらうと考へる事。
今度の試合の勝てたのは全員が一致協力してあり
たけのアシトを出してゆるみなく戦ったからである。
我々が一すれ叩き分けられても見せ庄が最後ほんの弱
い敵にエヘモ敗北を喫せねばならぬ事は必定だ。
農大をとて工大をとて東洋をとてリーグ戦となれば死
物狂でやって来るつた。去年のやうにオ一戦に完勝
したか、去年の敗北踏んづら大変である。滑り出
しおよい時は非常に危険である。部員に少しでも
~~生氣~~ 敵をあとづらにかかるとそれが此れ
からの練習にあらはれたらその結果は實に恐ろ
いものであらう。我々は何れも心正義を

一戦一戦を ~~○~~ 又取の練習五飽く迄勝ち
抜いて行かねばならない。

(奥村)

5月3日(月) 晴 練習休み
本科生は 鍛錬部の銃剣統合訓練に参加、
予科生は 勤労奉仕の鳥学校に来校して予三
大が集つて試合の祝辞を述べた。帰途小沢屋
に立ち寄った。
(奥村)

5月4日(火) 晴 練習休み
予科生全校修練の為練習休み。練習がない
と確かに体調が良くない。川端の説明によ
ると汗を出さない爲に体内に毒素が溜りよし、
毒或ひはそのまま通りかも知れぬが、今迄の緊張
が漏けて、一時に疲労が生じためらしい。

新入生が 16人も居たとの事、それも大部分が
希望者とは頗るしい。
(カトウ)

5月5日(水) 晴 風烈
今日は懇親会、新入生歓迎会だ。俺は
たつた、一月か二ヶ月の短い期間ではあつたが
予科の部員といふ苦惱を体験し、何等の
満足な結果を得られなかつた。そして今はその
混沌の中へ張切つてはゐるが、~~今~~ こうする術

も無く、少しアレ氣味な兵も表はれてみ
た。此の時に新鮮な若い一年生を迎へ
て、何か新しい出会いがある感が洋々。
皆元気で思小存分に部生活を擴張
して貰いたい。
(カトウ)

5月6日(木) 晴 暑氣烈
久しぶりの練習で気持良く伸びた。
一年生も少しある元気にやつてゐた。オーバンコ
等は伸び速い。皆詰ひあはせて出席す
やう。 感く夏になつたとの印象を深
くした。
(カトウ)

5月7日(金) 晴

- 1. 体操 2. ground一周 3. dribble 2回
- 4. short kick 5. long kick 6. running pass
- 7. heading 競合 8. shooting 9. back 跳合
- 10. formation 11. ground一周 12. 墓堂

グランドは堅く、而も猛烈に埃が立つ様になつて来た。
少し位の雨では何ともならない。烈日の下、練習は之から
益々苦くなつて行くのである。
昨日よりは大分樂になつた、と云ふのは廢だが、昨日よりも
結構になつた。何處も三日も休んだから少しは苦いのも

当然である。早く之を乗り越えなくちゃならぬ。

一年生が入って来ると非常に心強い感がすると同時に、
買付ではらんとうるさい気持がする。予ニが少くとも何とかつて
我々は学科の中核なのだ。しつかりやつて行かう

(高柳)

5月8日。 夕晴

午後野球部練習の始終、卓球部の練習行はる。

此一学生の改進の方は頗るもし。

日本、学部内部会の出席席。

1. 体操.
2. running (jumna = 国).
3. dribble.
- 4 short kick.
- 5 long kick.
- 6 Gold's kick.
7. Heading.
- 8 shooting.

新入二十数名の新人を得、第一昇天の勢ひあり。

新入からの決意を以て start して僕たち新人を迎へて歓迎
XPあり。 新人よくなれとき喜びが却り!

よくなれ吾が部に運びては!

さて諸君 徒歩に目前の医学、容易なる成績を取らん
XNあり。 かゝる者不幸いにあらば直ちに ~~落第~~ せよ。

蘇木山諸君入部は日浅きゆめ若等が憂慮と解せざりかと
歓迎会にて級生各個別に話と申す間、吾が部は蹴球部と通じて
部員の生活の場所を ~~失~~ す。 而して ground は神聖なる道場
なり。 一方 uniform に着かねば ground に立ちや。吾の

練習は普通に云はゆる練成、ふさがれそれ ~~失~~ ふ失。

吾の内中運動の極致まで(内床を被るを要すればあらず)
ひそかに諸君のへまといへばり ~~run~~ かの時、汗がとろとろ
現す中のメイヨウ、實の裏からかゝ光明を得るべし。

之の光明。一人は急進の練習を終へる者之外は(万能か
云ふ能い得人)。

諸君、吾は細き事、ことしきみは取れえとは思ひ。

吾故に幾度か此の生活の時間と地主は内中通りに有る
所に及第者を又との例で踏むいへば又又確実にらうと思ひ
され諸君。Xの念だらば(~~某~~ 起らんは事凡て)

今が、猶苟されよ。

諸君、一度図書室轉じて観音を貰ふ。

毎日この時間は神聖なる學園に立たず國ぞらをかぶる。

専念の學業。練成。競技 等々... 時間の限は
往々の学生生活とは最早離れて。此いは何んの事も
學園の運営の号令は既に今日より。

此の時間、此の態であれ。吾は安易に生活を送る所には
許さぬ。専門の練成に之の全體を以て済す所は今後、
諸君よくなれ吾が學園に入らぬ。而してよくなれ吾が部に至
かくの半は確固の決意と據へべし。人の頼る所かれ。
己の志を發揮せん所を廣き。己の練成。これ等の専門を
成し、其の又練成を以て。

諸君を本を語り。被るに ~~失~~ かの裏便は二本を読め。

脇内は既にちぢれをへかう。

而此等事。ground 仍是其上之物。若飞去时。地心
之引力。何以。仍能及乎。

感激は心から生まれる。

これは安易なる感傷が非。久は長い生を甲斐を感じ、むかづく
強きを感じ、自らの弱さを苦悶せしるばかり。
(よしむら)

新宿子、南へは一あきよ、さきよ、

御一子君の御仕事の事は少く御存知なれど。

(+ 2)

5月9日 晴

1. running. 2 short kicks 3. long kick
4. Gold's kick, 5. shooting 6. back's kick
7. running-pass.

1) 湿地、水窓の遊び場は さい。

（あせ書きがくかん）